

北海道各地から産出する黒曜石
その68

～黒曜石の原産地(噴出源) その2～

(6)置戸地域

置戸地域では、2つの組成グループに分類され、置戸Ⅰ組成グループは置戸山山頂付近、置戸Ⅱ組成グループは所山山頂付近がそれぞれ噴出源である。最近、新しく林道が開削された時に、筆者が幅10数m、高さ数mにわたって黒曜岩溶岩流の断面が露出し確認した。置戸地域の黒曜石は、常呂川によって下流域に流され広範囲に分布しているのが知られている。

(7)遠軽地域

遠軽地域では、新第三紀中新世後期に相当する社名淵層上部層の谷本川火砕岩の火山礫凝灰岩に巻き込まれた握りこぶし大以下の円礫～やや角張った礫として存在することを今回の調査で筆者が初めて明らかにした。しかし噴出源については、明らかではなく今後、更に広域調査が必要となる。

(8)雄武地域

雄武地域では、元稲府溶岩中に3～5mほどの幅の厚みのある黒曜石レンズが一般的に知られており、この溶岩が分布する音稲府川の上流域に噴出源があると考えられる。

(9)生田原地域

生田原地域では、背谷牛山山頂より南南東の488mのピーク(マップの459mピークから南西約825m付近)をもつ尾根の南側斜面に多数の黒曜石を今回の現地調査によって初めて筆者が確認しており、その量から推測し、この近辺に局所的な黒曜石の岩体が存在する可能性がある。

(10)奥尻地域

奥尻地域では、勝瀾山が黒曜石の噴出源である。

(11)十勝地方

十勝地方における黒曜石の分布場所と分析結果から、ガラス光沢を呈し主に音更川とその支流で見られる十勝Ⅰ組成グループは、現在の南クマネシリ岳山頂より西側近辺が噴出源であることが、これまでの幾度にもわたる筆者の広域調査で初めて明らかになった。その噴出時期は新第三紀中新世頃と考えられる。それに対し、にぶい光沢を呈する十勝Ⅱ組成グループは、これまでの調査で然別川上流域が噴出源と考えられるが、この詳細な場所については未だ明らかになっていない。

(12)紋別地域

紋別地域では、上モベツ川上流域の他、上モベツ九線川流域やシマララギ川流域、シブノツナイ川流域などで中期中新世の上モベツ流紋岩溶岩部層が知られており、筆者による現地調査で、このうちの“黒曜石及び真珠岩溶岩”の層が分布する地域一帯が噴出源であると考えられる。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

Mukai Masayuki
(学芸員 向井 正幸)

旭川市博物館HP

